

令和 7 年 8 月 7 日

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
岡山情報 I T クリエイター専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 岡山情報 I T クリエイター専門学校 学校関係者評価委員会は、令和 5 年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

1. 実施情報

(1) 会議日時・会議場所

令和 7 年 8 月 7 日 (木) 15:30～16:10 大原学園岡山校 402 教室

(2) 出席者

①学校関係者評価委員

成本 達哉 様 (愛和税理士法人 岡山オフィス 所長)
守屋 禎 様 (岡山西大寺病院 人事課 課長)
和泉 裕子 様 (株式会社 ENGI 倉敷スタジオ 所長)
岡 了 様 (株式会社 トスコ 総務部副部長)

※個別応対 (8 月 20 日 (火) 10:00～10:40 で対応)

中村 博明 様 (防衛省岡山募集事務所 所長)

②事務局

内田 康則 (学校法人大原学園岡山校 校長)
竹中 永吾 (学校法人大原学園岡山校 教務部 次長)
前田 鷹行 (学校法人大原学園岡山校 教務部 教務 1 課 課長補佐)
水上 貴博 (学校法人大原学園岡山校 教務部 教務 2 課 課長補佐)

2. 令和 5 年度 学校関係者評価報告

下記表中「評価」の基準

0% (取り組めていない) ～ 100% (取り組みは十分で、成果も出ている) までの 11 段階評価

【基準 1】教育理念・目的・育成人材像

1-1 理念・目的・育成人材像自己点検・評価報告書 P.2 に対応)

項目	自己評価
理念・目的・育成人材像は、定められているか	定めている
育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	70%
理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	80%
社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	80%

(1) 総括

教育理念・目的は書籍や小冊子として全教職員に配付され周知徹底されている。学園の特色の一つが『教育ストーリーを 3 段階(4 期)に区分』して実施することである。「資格取得」において一定の成果を残し、有為な産業人を育成することができている。資格取得と就職実績をさらに向上しつつ、実務教育を充実させるために、社会の動向を的確に見極め、ニーズを調査・分析して事業計画を組んでいる。

(2) 学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

【基準2】学校運営

2-2 運営方針（自己点検・評価報告書 P.4 に対応）

項目	自己評価
理念等に沿った運営方針を定めているか	定めている

（1）総括

学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。それらに基づいて管理職会議で詳細を決定し、その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。

教育現場への浸透度合いを確認し、より高めることが今後の課題である。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

2-3 事業計画（自己点検・評価報告書 P.5 に対応）

項目	自己評価
理念等を達成するための事業計画を定めているか	定めている

（1）総括

学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

2-4 運営組織（自己点検・評価報告書 P.6 に対応）

項目	自己評価
設置法人は組織運営を適切に行っているか	90%
学校運営のための組織を整備しているか	90%

（1）総括

理事会・評議員会で決議された内容は、事業部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

2-5 人事・給与制度（自己点検・評価報告書 P.7 に対応）

項目	自己評価
人事・給与に関する制度を整備しているか	80%

（1）総括

要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。また、人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心にして適切に運用されている。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

2-6 意思決定システム（自己点検・評価報告書 P. 8 に対応）

項目	自己評価
意思決定システムを整備しているか	90%

（１）総括

理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

2-7 情報システム（自己点検・評価報告書 P. 9 に対応）

項目	自己評価
情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	80%

（１）総括

学校における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務軽減に役立っている。役目を終えたシステムなどが残されており、また、業務に応じ、その都度開発されてきた各種システムが存在しているため、これらの整理統合に取り組んでいる。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

【基準３】教育活動

3-8 目標の設定（自己点検・評価報告書 P. 11 に対応）

項目	自己評価
理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	定めている
学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	明確にしている

（１）総括

毎年、教育課程を編成するに当たり、教育課程編成委員会の提言を教育課程に反映させることで時代のニーズに合った教育を提供している。

また、各学科の教育目標、育成人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

3-9 教育方法・評価等（自己点検・評価報告書 P. 12 に対応）

項目	自己評価
教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	80%
教育課程について、外部の意見を反映しているか	80%
キャリア教育を実施しているか	80%
授業評価を実施しているか	80%

（１）総括

教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。定期的な見直しに当たっては、卒業生、関連企業等と協力した検討会によっている。その中で、昨年提言のあった何もかもを取り入れるのではなく、現状に即した取捨選択を行ってカリキュラム設定等を行っている。

また、学生に対して定期的に授業アンケートを実施し、講義方法の改善をおこなっている。

（２）学校関係者の評価・提言

昨年提言をした「対学生」に求める資質の部分をまずは学校が体现されており、適正に運営されている。

3-10 成績評価・単位認定等（自己点検・評価報告書 P. 13 に対応）

項目	自己評価
成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	80%
作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	80%

（1）総括

成績評価は客観的な方法で常に明確に行っている。

毎年卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立っている。また卒業研究については、研究内容設定から成果評価まで企業・官公庁に協力いただき、現在のビジネス現場に応じた実践的内容で実施することができている。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

3-11 資格・免許の取得の指導体制（自己点検・評価報告書 P. 14 に対応）

項目	自己評価
目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	80%
資格・免許取得の指導体制はあるか	80%

（1）総括

資格取得や技術習得の体制については一定の水準は維持できている。

保護者等への教育方針の理解を高めること、また実務家教員の動員を進めることで、より教育の質向上を図る。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

3-12 教員・教員組織（自己点検・評価報告書 P. 15 に対応）

項目	自己評価
資格・要件を備えた教員を確保しているか	60%
教員の資質向上への取組みを行っているか	70%
教員の組織体制を整備しているか	80%

（1）総括

教員の確保については課題が残る状況となっている。引き続き、採用活動の強化を図りたい。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

【基準4】学修成果

4-13 就職率（自己点検・評価報告書 P. 16 に対応）

項目	自己評価
就職率の向上が図られているか	80%

（1）総括

就職希望学生への就職指導においては、担任及び担任以外の教員が個別面談を薦め、学生個人の適正及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。またそれらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。

（2）学校関係者の評価・提言

マッチングで大切なのは企業が取り扱う案件（版權）に関わりたいではなく、職種を理解した上で企業選択が重要と思われる。よって、職種の研究を十分に行った上での学生とマッチした職種を明確に行い、就職活動に反映することが大事になってくるのではないかな。

4-14 資格・免許の取得率（自己点検・評価報告書 P. 18 に対応）

項目	自己評価
資格・免許取得率の向上が図られているか	70%

（１）総括

求められる技術、人材を常に把握できるよう、業界関係者とのネットワークを日々広げている。多くの人材を業界に輩出するためにカリキュラムや指導方法の研究も行っている。今後も引き続き、就職活動に有利になる技術を研究する必要がある。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

4-15 卒業生の社会的評価（自己点検・評価報告書 P. 19 に対応）

項目	自己評価
卒業生の社会的評価を把握しているか	70%

（１）総括

企業情報収集体制が確立できれば、教育カリキュラムや教育課程編成に役立てていきたい。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

【基準５】学生支援**5-16 就職等進路（自己点検・評価報告書 P. 21 に対応）**

項目	自己評価
就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	80%

（１）総括

就職は教育の大きな目的であり、そのための支援体制は整備されている。就職内定獲得に必要な指導内容は２年間カリキュラムの一環として組み込まれ、早期の内定獲得を実現している。

（２）学校関係者の評価・提言

研修については、イーラーニングを活用するようになった。
コロナの影響で新人研修は各営業所で行っていたが、本社に集まり全員で同じ内容を受けるように戻った。仕事にもよるが、様々な会社に関わる仕事の場合、協力しあい仕事を進めているため連携を取りつつしている。手段は問わず関わりをもっている。

5-17 中途退学への対応（自己点検・評価報告書 P. 22 に対応）

項目	自己評価
退学率の低減が図られているか	70%

（１）総括

退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の１つとして取組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、その対応として、昨年の提言にあった「目標設定」と継続的な「フィードバック」に取り組んだ。今後は学生指導勉強会の実施等、担当者の更なる能力向上に向けた取組みが必要である。家庭との連携も欠かせない。

（２）学校関係者の評価・提言

昨年の提言を取り入れた活動がされており、適正に運営されている。

5-18 学生相談（自己点検・評価報告書 P. 23 に対応）

項目	自己評価
学生相談に関する体制を整備しているか	70%
留学生に対する相談体制を整備しているか	70%

（１）総括

学生のシグナルを担当が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面談を行い、今後の進路・目標・悩みなどを聞きだし対応している。その結果を面接記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。

（２）学校関係者の評価・提言

技術が備わっていれば国籍は問わず採用を行っている。採用するにあたって、求められる日本語能力は N1、N2 以上が必要。日本語以外に、業界用語を働きながら覚えて頂いている。

5-19 学生生活（自己点検・評価報告書 P. 24 に対応）

項目	自己評価
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	70%
学生の健康管理を行う体制を整備しているか	90%
学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	90%
課外活動に対する支援体制を整備しているか	60%

（１）総括

より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

5-20 保護者等との連携（自己点検・評価報告書 P. 25 に対応）

項目	自己評価
保護者等との連携体制を構築しているか	80%

（１）総括

保護者等への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意文書の発送と同時期に確実に保護者等への連絡を義務付けている。また、必要に応じて来校していただき、面談も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取る事が難しく、また理解を得られない保護者等も年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

5-21 卒業生・社会人（自己点検・評価報告書 P. 26 に対応）

項目	自己評価
卒業生への支援体制を整備しているか	70%
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	60%
社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	80%

（１）総括

卒業生への支援体制としては、担当窓口または卒業担当が問い合わせに応じて対応している。担当窓口または卒業担当と上司や他の教員、関係部署間の連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生の満足も得られている。さらなる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている。また、大学生や社会人などのニーズに応える制度の開発をさらに進めていく。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

【基準6】教育環境

6-22 施設・設備等（自己点検・評価報告書 P. 28 に対応）

項目	自己評価
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	70%

（1）総括

施設・設備に関しては、十分な対応ができていると思われる。今後もこの体制を崩さないように教職員の意識を高めながら維持していきたい。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

6-23 学外実習、インターンシップ等（自己点検・評価報告書 P. 29 に対応）

項目	自己評価
学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	70%

（1）総括

実習等や研修の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的等をしっかりと伝えている。また、実習・インターンシップ参加前はトラブルにならないよう校内において受入先を想定し、実習前トレーニングを行うとともに目的確認を行っている。研修については説明会を多く設定し事故やトラブルを防ぐように努めている。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

6-24 防災・安全管理（自己点検・評価報告書 P. 30 に対応）

項目	自己評価
防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	70%
学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	70%

（1）総括

保険等の加入については十分なものになっているが、それ以前の物的及び人的な備えに関して、これから対応を施していかなければならない。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

【基準7】学生の募集と受入れ

7-25 学生募集活動（自己点検・評価報告書 P. 32 に対応）

項目	自己評価
高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	90%
学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	80%
留学生の受入れについて戦略をもって行っているか	未実施

（1）総括

将来を意識した学生および保護者等に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起こさないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

7-26 入学選考（自己点検・評価報告書 P. 33 に対応）

項目	自己評価
入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	80%
入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	60%

（1）総括

学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っているこの体制を維持していく。
また、入学選考時に把握した情報は担任レベルまで落とし込んでいく体制作りを行う必要がある。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

7-27 学納金（自己点検・評価報告書 P. 34 に対応）

項目	自己評価
経費内容に対応し、学納金を算定しているか	算定している
入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	行っている

（1）総括

教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

【基準8】財務**8-28 財務基盤**（自己点検・評価報告書 P. 36 に対応）

項目	自己評価
学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	安定している
学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	行っている

（1）総括

学生募集については、学科、コースにより変動はあるが、学校全体としては好調であり、財務基盤は安定している。具体的には、キャッシュフロー、消費収支差額比率などの数値も良好な値を示している。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

8-29 予算・収支計画（自己点検・評価報告書 P. 37 に対応）

項目	自己評価
教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	策定している
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	行っている

（1）総括

当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

8-30 監査（自己点検・評価報告書 P. 38 に対応）

項目	自己評価
私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	実施している

（１）総括

学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄附行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

8-31 財務情報の公開（自己点検・評価報告書 P. 39 に対応）

項目	自己評価
私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	70%

（１）総括

学園全体の財務情報は、大原学園ホームページで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

【基準 9】法令等の遵守**9-32 関係法令、設置基準等の遵守**（自己点検・評価報告書 P. 41 に対応）

項目	自己評価
法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	90%

（１）総括

学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制をとっており、順守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

9-33 個人情報保護（自己点検・評価報告書 P. 42 に対応）

項目	自己評価
学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	80%

（１）総括

個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

9-34 学校評価（自己点検・評価報告書 P. 43 に対応）

項目	自己評価
自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	行っている
自己評価結果を公表しているか	公表している
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	行っている
学校関係者評価結果を公表しているか	公表している

（１）総括

自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、大原学園ホームページにも掲載している。

外部者による学校関係者評価を行い、報告書は大原学園ホームページに掲載している。今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

9-35 教育情報の公開（自己点検・評価報告書 P. 44 に対応）

項目	自己評価
教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	70%

（１）総括

学校の概要や教育内容は、大原学園ホームページ等に掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

【基準 10】社会貢献・地域貢献**10-36 社会貢献・地域貢献（自己点検・評価報告書 P. 46 に対応）**

項目	自己評価
学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	80%
国際交流に取り組んでいるか	70%

（１）総括

附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供していく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたものも提供したいと考えている。

（２）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている。

10-37 ボランティア活動（自己点検・評価報告書 P. 47 に対応）

項目	自己評価
学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	80%

（１）総括

ボランティア活動は近隣清掃を中心に計画をしていたが、コロナ禍のため活動が活発に行うことが出来なかった。ただし、昨年の提言を頂いた「目的を持ったボランティア活動の重要性」を浸透させることで、単発ではあるが献血運動では学生からの自発的な参加があった。

（２）学校関係者の評価・提言

昨年の提言を活かし、適正に運営されている。

(4) 学校関係者評価委員会 総括

開校5年目であり4期生が卒業した年度であった。高等教育無償化を中心として、昨今の教育を取り巻く社会情勢は年々変化が大きくなっているが、その中で大原学園は教育理念に基づいた運営方針を明確に定め、その理念を達成するための事業計画の策定、研修制度の確立を通じて有為な人材育成が行われていると考える。昨年度は岡山校として大原学園の教育を飛躍させる1年間とし、

①カリキュラムの再編成と技術習得および資格試験の指導法の改善

②就職等進路に関する支援組織の改善と地場企業への就職強化

③地域活動を通じた社会性の向上

3点を中心に学園基準を主軸としながらも岡山校の現状に即した内容・手法の改善を図ってきた。

①カリキュラムの再編成と技術習得および資格試験の指導法の改善については、学園として「新教育課程」のカリキュラムを導入しており、岡山校としてもこの教育課程を基準に指導が行を行いながらも、入学者の適性にあわせて手法については創意工夫を施した。結果は概ね高い合格率を維持できており、岡山校としてのスタイルが確立できているのではないかとと思われる。特に、授業効率および学生の自学学習の利便性向上を目的に導入された「デジタル教材」についても定着を図る事が出来、結果向上の一因となっているのではないかと推察される。今後は各教員において多くの引き出しを持つ指導が求められており、専門科目の知識のみならず指導力の更なる向上も図っていかねばならない。

②就職等進路に関する支援組織の改善と地場企業への就職強化については、担任制度の中で具体的な活動指導、学内での企業・官公庁説明会等を開催し、就職支援体制の基本的な部分および社会情勢に対応した柔軟な運営ができたと思われる。今後は学生の第一希望の希望業界・職種への内定率向上と学生のキャリアプランに沿った就職の実現を目指し、学生の意欲や能力に応じた多岐に渡る選択が出来るように学園全体で体制を整えていく。

③地域活動を通じた社会性の向上については、ボランティア活動を中心に育んでいる。主に岡山市との「岡山市環境パートナーシップ事業 エコボランティア活動」を通じて、学校として学生のボランティア活動参加機会を設けている。また、新たに「岡山市消防団」にも所属して地域の防災活動への参加も行い、昨年以上の活性化が図れたと思われる。

以上をふまえて、岡山情報ITクリエイター専門学校の今回の自己点検・評価報告書の内容については概ね適正に運営されているとの評価をしている。

以上

作成：令和7年8月20日

文責：水上 貴博